

和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科博士後期課程の理念・目的と目標

1) 教育理念・目的

広い視野と高邁な倫理観に立って、人間の尊厳を重視する保健看護学の教育・研究を進め、保健・医療に対するニーズに先駆的に対応し、健康に関係する様々な分野における健康づくりに寄与できる教育・研究者を育成し、地域における人々の健康に貢献する。

2) 教育目標

本研究科博士後期課程では、修士課程（博士前期課程）での教育を基盤として、高等教育研究機関において新生児から高齢者まであらゆるライフステージにある全ての人や家族、地域において、健康問題の理解や援助、もしくは健康の保持・増進について考究できる教育・研究者ならびに健康問題を解決し、健康の保持・増進や生活支援方法を開発・推進していくために保健・医療施設等において教育・研究を担うことができる教育・研究者を育成し、人々の健康に貢献する。

したがって、教育目標は社会的な健康に関する問題に積極的に参画し、保健看護学の研究に取り組み、教育や保健・医療の場でも健康問題を解決し、健康の保持・増進や生活支援方法を開発・推進していく能力を育成することとする。

現在の保健・医療の高度化や生活環境の複雑化と多様化が進行する中で、人々の多様な健康課題を解決し、よりよい生活習慣の確立や疾病予防、生活の質（Quality of life : QOL）を高めるためには、より豊かで柔軟な発想と科学的な根拠に裏付けられた生活支援方法の開発と推進がより強く求められるようになってきている。従来の保健・医療の現場では、ともすれば経験に基づいた見識や理論に基づいて保健・医療がなされることもあった。その反省から科学的検証に基づいた保健・医療を目指し、根拠に基づいた医学・看護（Evidence based Medicine (Nursing) : EBM(N)）の手法が取り入れられるようになった。保健看護学では、状況などが刻一刻と変化する個々の人間を扱い、心と体をもった全体として理解する、すなわち人を包括的に捉えることが重要であるが、経験や勘に頼ることない EBM(N)に基づく考え方の視点も修得する。さらに、保健・医療のニーズに対して研究成果を還元し、保健・医療の現場において健康づくりが推進できるよう、地域の保健・医療に対する深い知識と高度の研究能力を備えるようにする。

3) 育成する具体的人材像

本研究科博士後期課程における教育・研究の中では、専門的知識と技術を修得するだけでなく、社会との関わりを基盤として、保健・医療の将来のあり方を見通し、疾病から健康にいたる科学的知識に基づく深い知識をもち、人を包括的に捉えることができる、健康づくりに関わる教育・研究者を育成することを研究科全体として目指す。

(1) 高等教育研究機関における教育・研究者

医療体制が改革されていくなか、健康が人々の生活に不可欠なものであることを自覚し、科学的知識、研究的思考能力、かつ倫理的感受性をもって自立した教育・研究者が求められている。

本研究科博士後期課程は、人々の抱えている健康問題に配慮し、高等教育研究機関等において健康問題の理解や援助、もしくは健康の保持・増進について考究し、新たな健康づくりのモデルを作成しそれを積極的に推進することのできる質の高い優れた人材を育成する。

(2) 保健・医療施設等における教育・研究者

保健看護職者の最終目標は、生きる希望と力を与え、生まれたときから最期の瞬間までもその人らしく生きることを支援することである。特に和歌山県においては、医療過疎地においても、個人はもとより家族や地域社会におけるケア能力を高め、人それぞれの健康と生活のために貢献することである。そのためには、保健・医療施設、自治体等において医療技術の進歩に対応し、生活習慣病などの予防や進行防止に努めるだけでなく、地域住民の健康管理能力を高める支援が必要であり、健康づくりを開発・推進していく教育・研究者としての能力が必要である。

本研究科博士後期課程は、住民の健康と生活に関するニーズを鋭敏にとらえ、保健・医療の質の向上に貢献するという、公立大学法人の社会的使命も果たす役割を担うことから、保健・医療施設・自治体等において教育・研究を担うことができる教育・研究者を育成する。

これらの高等教育研究機関における教育・研究者と保健・医療施設等における教育・研究者の両者は、卓越した人材としての高度で自立的な研究能力、保健・医療の現場におけるコーディネート、保健指導の能力、さらに、健康の保持・増進あるいは生活支援方法を研究開発していく能力が共通して必要である。したがって、両者を区別しない教育課程で教育する。